

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

防災キャンプ推進事業

秋田県(大館市)

【事業のポイント】

- 学校を避難所とした生活体験を実施。
- 防災教育プログラムの実施。
- 児童、保護者、地域住民等の参加。
- 小学校、PTA、地域委員会、学校後援会、地域住民、まちづくり協議会等で構成する、地域委員会を組織。
- 日本赤十字社、社会福祉協議会、消防機関、町内会



1. 企画

(1) 事業実施の背景

東日本大震災を受け、非常時には瞬時に適切な対応をとることが求められるため、必要な技術や知識を習得する体験活動の場が必要である。

東日本大震災では、多くの被災者が長期間、避難所での共同生活を送る事態となったことを踏まえ、避難所体験、野外炊飯などの非常時の生活を想定した体験を行う機会を設けることが必要である。

非常時にどのような行動をとるべきかを体験的に学ぶ機会になるとともに、親子や地域住民などが協働して取り組むことにより、非常時も共に助け合うことのできる地域の絆づくりと防災意識の高揚につな

(2) わらい

①大災害が発生したときに、自分の身は自分で守り、共に助け合うことを学び、必要な技術や知識を習得する。

②市の教育の根幹に据えている「おおだてふるさと・キャリア教育」の一環としても、地域の方々との触れ合いの中で、地域で『生きる』ことを学び、地域の一員としての自覚をもつようにする。

③避難所体験を地域全体で取り組むことを通し、地域住民の絆を深め、防災意識の高揚を図る。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成

大館市教育委員会

東館小学校プラットフォーム

- 東館小学校PTA会長
- 東館小学校後援会会長
- 東館小学校校長
- 東館まちづくり協議会会長
- 東館老人クラブ会長
- 独鈷町内会防災担当
- 向田町内会防災担当
- 東館地区消防団員
- 東館地区婦人会
- 6年保護者代表
- 5年保護者代表
- 4年保護者代表

花岡小学校プラットフォーム

- 花岡小学校長
- 花岡小学校教頭
- 花岡小学校PTA会長
- 花岡小学校PTA副会長
- 地域支援コーディネーター
- 大館市消防本部指導者
- 花岡公民館長
- 花岡町内会長連絡協議会長
- 大館少年自然の家指導者
- PTA学年部長
- 5年保護者代表
- 6年保護者代表

(2) 具体的な取組の概要

- ・防災に関する研修会(講演)
- ・AEDの使用法
- ・救急対処法
- ・避難所設置に向けての説明
- ・避難所設営(生徒・保護者・地域住民)
- ・無洗米の炊飯・非常食
- ・ランタン作り
- ・暗闇体験
- ・煙ハウスによる煙体験
- ・消火器による消火訓練

(3) 実績スケジュール

月 日	内 容
6月上旬	事業日程の調整及び運営体制の検討(2校)
6月27日	大館市立東館小学校地域プラットフォーム第1回委員会(大館市教育委員会)
7月1日	大館市立花岡小学校地域プラットフォーム第1回委員会(大館市教育委員会)
7月12日	大館市立東館小学校地域プラットフォーム第2回委員会(大館市教育委員会)
8月10日	大館市立花岡小学校地域プラットフォーム第2回委員会(大館市教育委員会)
7月16日～ 7月17日	大館市立東館小学校防災キャンプ(大館市教育委員会)
8月27日～ 8月28日	大館市立花岡小学校防災キャンプ(大館市教育委員会)
9月2日	大館市立東館小学校地域プラットフォーム第3回委員会(活動総括)
9月9日	大館市立花岡小学校地域プラットフォーム第3回委員会(活動総括)

3. 成果と課題

(1) 成果

- ①自分の身は自分で守り、共に助け合うことの大切さを学ぶことができた。
- ②自分の育った地域で『生きる』ことを学び、地域の一員としての自覚を持つきっかけとなった。
- ③地域住民の絆が深まり、学校を含む地域全体の防災意識の高揚がみられた。

(2) 課題

- ①避難所を想定した学校備蓄品の必要性。
- ②学校が避難所となった場合の学校・地域・関係各機関の役割の明確化と非常時の運営体制の整備。
- ③学校・家庭・地域が一体となった継続的な避難訓練などの実施と地域全体の防災教育の推進。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

- ・学校を避難所として防災キャンプを実施できたことは、地域プラットフォーム形成という意味ではとても貴重な体験であった。これを機に、地域の将来を担う子どもたち・高齢者を守るためにも、地域連携の事業を協働で実施できるよう、また継続することが必要である。
- ・何度も繰り返すことで防災に関する認識が高まるので、地域と学校が協働で、年に1回は防災訓練を実施する体制づくりをする。
- ・防災訓練だけではなく、普段から児童と保護者を含めた地域の参加による交流事業を実施していくことが重要である。

5. 団体プロフィール

○秋田県教育庁保健体育課

〒010-8580 秋田県秋田市山王三丁目1番1号
TEL:018-860-5204 FAX:018-860-5207

○大館市教育委員会

〒018-3595 秋田県大館市早口字上野43番地1(田代総合支所内)
【担当】生涯学習課
TEL:0186-43-7113 FAX:0186-54-6100

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

防災キャンプ推進事業

秋田県(北秋田市)

【事業のポイント】

- もし学校が「避難場所」になったらを想定する。
- 小学校を中心として、保育園や地域住民との合同での防災訓練・学習を行う。
- 地域住民の協力を得ながら実施し、また一緒に学ぶことでコミュニケーションを深める。



1. 企画

(1) 事業実施の背景

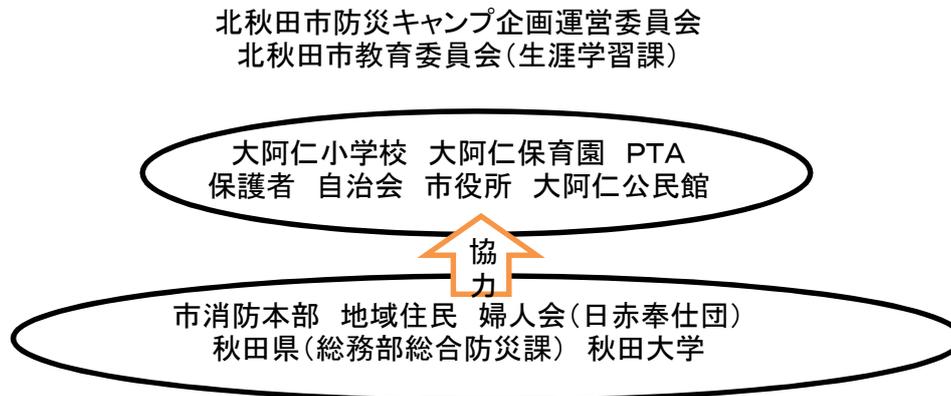
大阿仁地区は山間部に位置し、学区内の殆どが土砂災害危険区域及び地滑り危険箇所である。唯一大阿仁小学校が危険区域から離れているため、避難所の指定をうけている。また、当地区は救急車搬送まで約15分、救急病院搬送まで約45分の時間を要する地区であり、救急搬送前の応急措置の対応が地域住民に必要不可欠なものとなっていることから、AEDや消火訓練等を盛り込んだ防災教室を計画した。

(2) ねらい

地震及び洪水・土砂災害によりライフラインを寸断された際の避難所運営や救急搬送前の応急措置対応等について学び、緊急時のトラブルを未然に防ぐと共に、学校を中心とした地域力を高める。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成



(2) 具体的な取組の概要

- 防災訓練
地震体験、煙体験、消火訓練、AEDによる心肺蘇生実習
- 宿泊体験
段ボールによる寝床作り、非常食体験、地域住民の安否確認訓練
- 防災学習
講話「災害を知り、防災を考える」、防災カードゲーム「なまずの学校」
講話「秋田県で発生した過去の被害地震から防災・減災を考える」

(3)実績スケジュール

月 日	内 容
6月28日	第1回企画運営委員会
7月14日	第2回企画運営委員会
7月23日～24日	防災キャンプ
8月29日	第3回企画運営委員会

3. 成果と課題

(1) 成果

- ・地域の過去の災害について知ることができた。
- ・安否確認の活動から、子ども達から声をかけることができるようになった。
- ・AEDの使用方法について、学ぶことができるのは大変良い事である。
- ・学校の先生がいなくとも、避難所を運営できるよう、今後検討する必要がある。
- ・各家庭での防災用具の位置確認等、今後も取り組んでいきたい。

(2) 課題

- ・今後の避難訓練の取組方法について、協議が必要であった。
- ・二日目の日程が、地域の奉仕活動日と重なってしまったため、地域住民の参加率が下がってしまったことから、地域活動のスケジュール調整を念入りにするべきであった。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

- ・今までも地域と一緒に進んでいた学校の運動会のように、防災訓練についても地域と一緒に学ぶ形での取組に変えていくようにしたいとの意見があったことから、より良い取組方法を模索し、次年度以降につなげていきたい。

5. 団体プロフィール

- 秋田県教育庁保健体育課
〒0108580 秋田県秋田市山王三丁目1番1号
TEL:018-860-5204 FAX:018-860-5207
- 北秋田市教育委員会生涯学習課
〒018-3312 北秋田市花園町10-5